

あいち農産物生産流通レポート

2024年1月号

	ページ
◎ 情報サロン	
・ 愛知生まれのカンキツ「夕焼け姫」のブランド化について (園芸農産課)	1
◎ 地域トピックス	
・ バイオマス・エネルギー利用施設で栽培されたミニトマトの出荷開始 (知多農林水産事務所)	2
◎ 東日本情報	
・ 京浜市場愛知県野菜連絡会キャベツ研究会が年明けに向けて調査を実施 (東京事務所)	3
◎ 西日本情報	
・ 2022年の県内卸売市場における青果物・花きの流通動向 (食育消費流通課)	5
◎ フラワーページ	
・ あいち花マルシェ2023を開催しました (園芸農産課)	6
・ JA愛知みなみ「グロリオサ”ZEN”」が優秀賞を受賞！ 「第19回フラワー・オブ・ザ・イヤーOTA2023」表彰式が開催 (東京事務所)	9
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	11
・ 名古屋・東京市場における青果物の1月の見通し	12
◎ 花き	
・ 切花・鉢花の1月の見通し(県内市場)	24

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

愛知生まれのカンキツ「夕焼け姫」のブランド化について



園芸農産課 夕焼け姫

「夕焼け姫」は、県農業総合試験場常緑果樹研究室（蒲郡市）が24年の歳月をかけて開発した愛知県初のオリジナル品種です。夕焼けのような鮮やかで目を引く赤橙色、甘味とほどよい酸味が特徴です。

県では、2019年6月に「夕焼け姫」ブランド化チームを立ち上げ、高品質果実の生産やPR活動を行っています。

1 産地見学会

2023年9月20日（水）、「夕焼け姫」の魅力や栽培方法を知っていただくため、東海市立農業センターのほ場において、生産者を対象とした産地見学会を開催しました。県内各産地から生産者が集まり、県職員や東海市の生産者から、「夕焼け姫」の特徴や白色のシートを地面に敷くマルチ栽培の手法等について説明を行いました。

参加者からは品種の特性や栽培方法について多くの質問があり、また、参加者同士でも積極的に情報交換がされる等、「夕焼け姫」の高品質栽培を広げる上で有意義な機会となりました。



夕焼け姫（上段）と宮川早生（下段）



産地見学会の様子

2 試食PRイベント

2023年11月25日（土）、「夕焼け姫」の販売促進及び認知度向上を図るため、豊川市のJAひまわりグリーンセンター豊川において、試食イベントを開催しました。400名以上に試食してもらい、多くの方が「夕焼け色」の外観の美しさや、甘さと酸味のバランスのよさに感嘆していました。



PRイベントの様子

3 産学官連携により制作した「化粧箱」

PRイベントでは、今年、産学官連携により制作した化粧箱を初披露しました。この化粧箱は、愛知淑徳大学の学生にデザインを制作していただきました。当日は、開店前から行列ができ、用意した化粧箱（2.5キロ、2,500円）が販売開始直後に完売する等、大きな反響となりました。同じく、同大学の学生にデザインしていただいたクリアファイルもアンケートの回答者にPRとして配布しました。



化粧箱での販売の様子

4 今後の取組

来年度は、県内有数の苗木導入地区である東海市でも出荷が始まる予定であり、出荷量は益々増加していきます。高品質な果実の生産とPRの両輪で、今後も関係機関と連携し、皆様に愛されるブランド果実となるよう、取り組んでまいります。

バイオマス・エネルギー利用施設で栽培されたミニトマトの出荷開始

知多農林水産事務所

半田市では、「半田市バイオマス産業都市構想」により食品廃棄物、生ごみ等の廃棄物を再資源化して発生させたメタン発酵ガスを活用するトリジェネバイオガス発電施設（運営会社：株式会社ビオクラシックス半田）が整備され2021年から稼働している。

そこで、発電により発生する余剰熱、CO₂についても有効に活用するため、運営会社の関連会社である農業法人株式会社にしまちが2022年度に強い農業づくり総合支援交付金を活用し、発電施設の隣接地へ化石燃料に依存しないミニトマト栽培ハウス（バイオファームHANDA）の整備を行い、2023年4月からのテスト栽培を経て同年11月に本格出荷が開始された。

1 ミニトマト栽培ハウスの整備

整備された低コスト耐候性ハウスは15連棟構造で施設面積12,240㎡は地域で最大規模を誇り、後述のバイオマス・エネルギーの活用を始め複合環境制御装置によるハウス内環境を最適化したミニトマトの養液栽培が行われている。



ミニトマトハウス内部

2 バイオマス・エネルギーの活用

当ハウス最大の特徴であるバイオマス発電で発生した余熱、CO₂の活用は発電施設から直接配管をつなぐことにより、ハウスへと供給され、化石燃料に依存しない栽培環境を実現している。

また、ミニトマト栽培で発生する残渣についてもメタン発酵ガスの原料として再利用されている。



発電施設からの熱・CO₂配管

3 にしまちのブランドミニトマト

（株）にしまちは、2014年から常滑市でミニトマト栽培を開始し、市場を通さないバイヤー等との直接取引を中心に「金赤トマト」のブランドで全国へ出荷を行っている。

今回整備したハウスで収穫されるミニトマトについては、にしまちの新たなブランド「HANDAミラトマト」として出荷されている。



HANDAミラトマト

京浜市場愛知県野菜連絡会キャベツ研究会が年明けに向けて調査を実施

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

12月9日（土）、京浜市場愛知県野菜連絡会キャベツ研究会の会員の卸売会社12社及び主要3JA（ひまわり、愛知みなみ、豊橋）、JAあいち経済連が3班に分かれ、千葉県銚子市及び神奈川県三浦市のキャベツ栽培ほ場において競合産地調査を、東京新宿ベジフル株式会社の会議室において品質検討会をそれぞれ行いました。産地調査及び品質検討会の終了後には参加者が東京都内の会議室に一堂に集まり、情報交換を行いました。

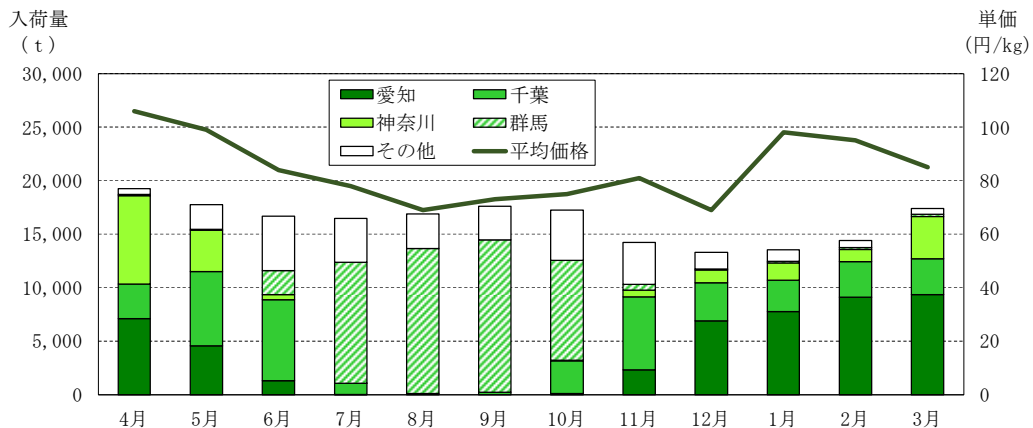


図1 2022年度キャベツ月別入荷量及び単価推移（東京都中央卸売市場）

本調査の目的は、京浜市場で本県産の入荷が本格化する年末年始を前に、競合産地の生育や出荷進捗状況及び出荷物の品質確認を行い、関係者で共有することにあります。(図1)

1 競合産地調査

(1) 千葉県（銚子）

全体的にみて、病虫害発生は見られず、外葉も青々としており、例年になく品質が良好でした。また、昨年と同様、一部のほ場で前進出荷している状況でした。ほ場の状況については、土の表面は少し乾いているように見えたが、土を掘ると湿り気（水分）が確認できたため、まだ干ばつ傾向にはなっていないと判断できました。



千葉県のほ場の様子

(2) 神奈川県（三浦・横須賀）

全体的にみて、病虫害発生は見られず、生育良好でした。6玉の比率が多い感じはなく、年末は8玉中心の出荷になると思われました。また、春キャベツの定植を進めている畑が多く、今作は春キャベツが少し早めに出てくると思われました。

作付け状況としては、一部の地区で、ダイコンからキャベツへの品目転換が行われていました。ダイコンよりもキャベツの単価が高いことが要因と考えられます。



神奈川県のは場の様子（左：冬系、右：春系）

2 品質検討会

(1) 冬系

愛知県3産地、茨城県1産地の出荷物をサンプル調査しました。11月の出荷始めにクレームが多発したのは虫害であり、出荷物に多く散見されましたが、調査したサンプルではクレームの対象となるものは確認されませんでした。

重量は、規格内ではありましたが、全体的に平年よりも少し軽く、それに比例して外葉が春系と同じように巻いてないという印象でした。

(2) 春系

愛知県3産地、千葉県1産地、神奈川県1産地の出荷物をサンプル調査しました。冬系とは逆で、割と重量のあるものが多く、品質も良好でした。調査したサンプルや現在の出荷の状況からは、年末年始は6玉傾向で推移すると思われました。



品質査定の様子（左）、サンプル例（中央は冬系、右は春系、いずれも同じ産地）

3 情報交換

県内産地に関しても、前進傾向であり、病虫害の発生も無く、豊作基調という報告が各JAからありました。卸売会社からは、198円で売れる露地野菜がダイコン、ハクサイを始め多くある中で、キャベツは少し割高感がある状況となっており、年明けに暴落しないように中からやや上ぐらいの価格で販売していくのが良いとの意見がありました。そのため、市場内でキャベツが価格を維持し魅力的な商品であるためには、本県産の安定入荷がカギとなりそうです。

この競合産地調査及び品質検討会は、本県産の入荷が後半戦に入ってから競合産地が急増する3月を前に、2回目が行われる予定です。

2022年の県内卸売市場における青果物・花きの流通動向

食育消費流通課

1 名古屋市中心卸売市場及び県内地方卸売市場の青果物について

(1) 2022年の野菜及び果実取扱数量

野菜については、名古屋市中心卸売市場の取扱数量は40万4千t（2017年比101.8%）で、5年前と比べて7千t増加しました（表1）。このうち、県内産野菜は7.0万tでした。一方、県内地方卸売市場の取扱数量は9万9千t（同83.0%）で、5年前と比べて2万t減少しました。このうち、県内産野菜は3万9千tでした。

果実については、名古屋市中心卸売市場の取扱数量は10万3千t（同99.5%）で、5年前と比べて1千t減少しました。このうち、県内産果実は1万tでした。一方、県内地方卸売市場の取扱数量は3万6千t（同78.9%）で、5年前と比べて1.0万t減少しました。このうち、県内産果実は1万4千tでした。

(2) 青果物の取扱数量における動向

県内地方卸売市場では、名古屋市中心卸売市場と比べ、野菜、果実ともに取扱数量の減少率が大きくなっています。その主な要因として、小規模農家の減少や、個人農家の販売チャンネルが多様化していることにより、地方卸売市場への出荷量が減少していることが挙げられます。

表1 県内の中央卸売市場および地方卸売市場における青果物の取扱数量

		2022年			2017年		
		全体	県内産	県産シェア	全体	県内産	県産シェア
名古屋市中心	野菜	40.4	7.0	17.3%	39.7	7.0	17.7%
	果実	10.3	1.0	10.0%	10.3	1.1	10.9%
県内地方	野菜	9.9	3.9	39.2%	11.9	5.0	41.9%
	果実	3.6	1.4	40.2%	4.6	1.7	37.3%

[単位:万t]

(注)表は小数点以下第2位を四捨五入しています。

2 県内地方卸売市場の花きについて

(1) 2022年の切り花及び鉢物取扱数量

切り花の取扱数量は2億2千6百万本（同105.2%）で、5年前と比べて1千1百万本増加しました（表2）。このうち、県内産切り花は7千9百万本でした。

鉢物（花壇用苗物等含む）の取扱数量は5千7百万鉢（同91.5%）で、5年前と比べて5百万鉢減少しました。このうち、県内産鉢物は2千2百万鉢でした。

(2) 花きの取扱数量における動向

切り花の取扱数量は、市場全体はやや増傾向である一方で、県内産は減少傾向にあります。

鉢物の取扱数量は、市場全体、県内産ともに減少傾向にあります。

表2 県内の地方卸売市場における花きの取扱数量

		2022年			2017年		
		全体	県内産	県産シェア	全体	県内産	県産シェア
県内地方	切り花	22.6	7.9	34.9%	21.5	9.4	43.7%
	鉢物	5.7	2.2	38.6%	6.3	2.5	39.1%

[単位:千万本、千万鉢]

(注)表は小数点以下第2位を四捨五入しています。

あいち花マルシェ 2023 を開催しました

園芸農産課

愛知県では、日本一の花の生産を誇る「花の王国あいち」として、あいちの花の消費拡大を図るため、花を「見て・触れて・購入できる」県民参加型のイベント「あいち花マルシェ」を2020年度から開催しています。

2023年度は、11月23日（木・祝）から26日（日）の4日間オアシス21（名古屋市東区）、NHK名古屋放送センタービル（同）、久屋大通庭園フラリエ（名古屋市中区）の3会場で「あいち花マルシェ2023」を開催しましたので、その内容をお知らせします。

1 花マルシェ

「あいちの花」等を集めた花マルシェを開催しました。きくやバラなどの切り花を始め、クリスマスシーズンにぴったりのポインセチアやシクラメン、洋らん、和物類などたくさんの花を販売しました。



出店の様子（左から、田原市・JA愛知みなみ、愛知県花き温室園芸組合連合会・鉢物部会、同・洋らん部会）

2 あいちフラワーコンテスト

花のできばえを競うフラワーコンテストは、きく、スプレーぎく、ばら・洋花、鉢花・花苗、観葉植物、洋らん、和物の7部門で計276点の出品がありました。（結果は以下のURLからご覧ください。 <https://aichi-hanamarche.com/news/compe.php>）



フラワーコンテストの受賞作品（上）、一般公開の様子（下）

3 花のディスプレイ

花とチョコレートのオブジェを使ったメインディスプレイを始め、愛知県花き温室園芸組合連合会（以下、「花き連」という。）きく部会、スプレーマム部会、カーネーション部会によるディスプレイが展示され、多くの来場者が写真に収めていました。また、NHK名古屋放送センタービルとオアシス21の連絡通路には、（一社）日本ハンギングバスケット協会愛知県支部の作品が展示されました。



メインディスプレイ



花き連スプレーマム部会
ディスプレイ



花き連カーネーション部会
ディスプレイ



花き連きく部会
ディスプレイ



ハンギングバスケット
協会の展示

4 ステージイベント

フラワーアレンジメントのデモンストレーションや名古屋モード学園の学生によるフラワーファッションショーが行われました。



フラワーアレンジメントの
デモンストレーション



フラワーファッションショー

5 花の体験教室

「あいちの花」を使ったフラワーアレンジメントや寄せ植え、カラーリングマム等のワークショップが行われ、多くの参加者にお楽しみいただきました。



左から、フラワーアレンジメント、ハンギングバスケット、カラーリングマム

6 その他のイベントなど

この他にも、NHK名古屋放送センタービルでは、(一社) JTFDのフローリストの技術を競うジャパンカップの東海ブロック予選が行われました。また、プレイベントとして、10月29日(日)には、花き産地を消費者に見ていただくフラワーバスツアーを西尾市で実施するとともに、11月4日(土)、5日(日)には、豊川市で開催された「とよかわ花マルシェ」に出展するなど、あいちの花のPRを行いました。



JTFD ジャパンカップ東海
ブロック予選

とよかわ花マルシェでの展示



フラワーバスツアーの様子

7 最後に

あいち花マルシェには、4万人を越える多くの方に来場いただきました。

「花の王国あいち」として、今後も花のPRに努めてまいります。

J A 愛知みなみ「グロリオサ “ZEN”」が優秀賞を受賞！

「第 19 回フラワー・オブ・ザ・イヤータ 2023」表彰式が開催

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2023 年 12 月 8 日（金）に大田市場で「第 19 回フラワー・オブ・ザ・イヤータ 2023」表彰式（主催：株式会社大田花き）が開催され、J A 愛知みなみグロリオサ出荷連合の「グロリオサ “ZEN”」が優秀賞を受賞しましたので、その概要を紹介します。

表 第 19 回フラワー・オブ・ザ・イヤータ 2023 受賞一覧

賞	品目	品種	産地名
最優秀賞	アジサイ	秋色 ミナヅキ	J A 利根沼田 尾瀬アジサイ生産部会（群馬県）
優秀賞	グロリオサ	Z E N	J A 愛知みなみ グロリオサ出荷連合（愛知県）
特別賞	ストック	ヴィンテー ジブラウン	余目町農協 花き部会（山形県）
新商品奨励賞	キイチゴ	いろは	株式会社 F. U. KAGAWA（香川県）



写真：左から Z E N、秋色ミナヅキ、ヴィンテージブラウン、いろは

1 フラワー・オブ・ザ・イヤータについて

国内最大手の花き卸売会社である㈱大田花きでは、優れた花きの出荷を奨励し、一層の品質向上を促すと共に、流行の指標づくりを行うことを目的とし、毎年、「フラワー・オブ・ザ・イヤータ」として表彰をしています。表彰式では、㈱大田花きで年間に流通した約 20 万点の商品の中から買参人※の購入データや、仕入れのし易さ、流通量、トレンドなど総合的に高く評価された品種、生産者に対して、賞を授与しています。

※買参人（ばいさんにん）：売買参加者とも呼ばれ、市場開設者（東京都中央卸売市場では東京都知事）の承認を受けた者で、卸売市場で競りなどにより品物を買う権利を持ちます。購入した品物は自社の店舗（生花店など）で販売されます。

2 JA愛知みなみグロリオサ出荷連合について

愛知県は、高知県に次ぎ2番目の生産量となる全国有数のグロリオサの産地です。当連合は、10年以上前から育種に取り組んでおり、育成された小輪系品種の「セントレアマスコットイエロー」など、小ぶりの花束にも使用しやすい中・小輪系の品種に力を入れて栽培しています。部会員の藤井隆志氏により育成されたオレンジ色の中輪系品種「ZEN」は、10年に一度開催されるオランダ・アルマーレ国際園芸博覧会（フロリアード2022）で金賞（エキゾチックな花部門）を受賞し、注目されています。



写真：グロリオサ「ZEN」

3 表彰式の概要

表彰式では、(株)大田花きの磯村代表執行役社長から表彰状が授与されました。受賞したグロリオサ出荷連合の藤井隆志氏は、「消費者のニーズに合った花を作っていきたいと常に思っており、これからも新しい品種を育成していきたい。また、受賞したことでやりがいにつながるだけでなく、様々なところで注目もされるので、気を引き締めていきたい」と意気込みを語られました。

表彰式は、多くの買参人が見守る中、競りが始まる前の競り室で行われました。受賞者には、買参人から盛大な拍手が送られ、受賞品種の更なるPRや受賞者の励みにもつながると感じました。



写真：グロリオサ出荷連合への表彰状授与の様子
（左）グロリオサ出荷連合 藤井 氏
（右）(株)大田花き 磯村 代表執行役社長



写真：受賞した
グロリオサ“ZEN”

愛知産青果物の動向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ±1%台以下
 わずか : ±2%台以内
 や や : ±3～5%台
 かなり : ±6～15%台
 大 幅 : ±16%以上

○ 名古屋市中央卸売市場（品目：こまつな）

	入 荷 量 (t)	うち愛知産	卸 売 価 格 (円/kg)	愛知産	前年主要産地 (上位3産地)
2023年実績※	2,860	174 (6%)	364	319	茨城(47%) 岐阜(29%)
2024年見通し	2,700	—	350	—	静岡(13%)
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>【概要】 作付面積は関東産地と同様に、愛知も減少傾向にある。今年は暖冬のため、入荷量の極端な落ち込みはない見込み。</p> <p>【見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(▲5.6%) 価 格：前年をやや下回る。(▲3.8%)</p>			<p>愛知は生産者の高齢化により入荷量が減少傾向にあるが、これからも地元産を安定供給していくため、作付面積と出荷量の維持を引き続きお願いしたい。</p> <p>※2023年12月の実績が出ていないため、2022年12月～2023年11月の数値を2023年実績として標記しています。</p>		

○ 東京都中央卸売市場（品目：セルリー）

	入 荷 量 (t)	うち愛知産	卸 売 価 格 (円/kg)	愛知産	前年主要産地 (上位3産地)
2023年実績※	7,398	493 (7%)	281	230	長野(42%) 静岡(24%)
2024年見通し	7,200	—	275	—	福岡(12%)
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>【概要】 全国的に生産者や作付面積の減少傾向が続いており、愛知を含めた秋冬産地も例外でない。主要な秋冬産地の動向は、静岡は台風などの気象災害もなく生育順調、愛知は出荷サイズが回復して例年どおりの出荷となり、潤沢な入荷が見込まれる。</p> <p>【見通し】 入荷量：前年をわずかに下回る。(▲2.7%) 価 格：前年をわずかに下回る。(▲2.1%)</p>			<p>品質維持と日量格差の少ない安定出荷とともに、精度の高い出荷情報の発信をお願いしたい。また、個人間の品質格差の是正、特売・販促の実施もお願いしたい。</p> <p>※2023年12月は実績が出ていないため、2022年12月～2023年11月の数値を2023年実績として標記しています。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の1月の見通し

名古屋市中央卸売市場

※グラフは白抜き箇所が見通しとなります。

12月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	2019年	29,711	227	261	218	215	愛知 27%
	2020年	30,385	216	254	206	200	北海道 21%
	2021年	32,315	223	241	218	213	茨城 12%
	2022年	30,877	234	253	233	226	熊本 5%
	2023年	31,824	235	278	216	229	静岡 4%
	5カ年平均	31,022	227	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	29,100	258	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 愛知、北海道などが中心となる。厳冬期に入り、レタスやなすなど一部の品目で生育停滞が予想され、入荷量が少なくなる見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年をかなり下回る。(▲8.6%) 価格：前年をかなり上回る。(▲9.7%)							
だいこん	2019年	1,704	64	75	61	65	千葉 40%
	2020年	1,721	68	91	68	61	静岡 20%
	2021年	1,633	88	102	85	85	鹿児島 14%
	2022年	1,790	79	87	71	85	神奈川 8%
	2023年	1,633	99	115	87	104	徳島 8%
	5カ年平均	1,696	79	94	74	80	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	1,600	90	90	90	90	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 千葉、静岡、鹿児島などから入荷する。愛知は年々作付面積が減少傾向にある。暖冬により2Lサイズの大玉中心となる予想。 【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに下回る。(▲2.0%) 価格：高値だった前年をかなり下回る。(▲9.0%)							
にんじん	2019年	1,853	101	109	106	93	愛知 90%
	2020年	1,965	97	123	105	79	千葉 5%
	2021年	2,166	118	133	130	102	鹿児島 2%
	2022年	2,192	94	112	96	85	長崎 1%
	2023年	2,020	118	138	114	113	茨城 1%
	5カ年平均	2,039	106	123	110	94	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	2,000	110	120	110	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 愛知を中心に入荷する。生育良好で順調な出荷見通しで、例年通りの展開を見込む。2L、Lの太物中心で、天候次第だが、価格の動きも大きな変動はない予想。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(▲1.0%) 価格：前年をかなり下回る。(▲6.8%)							

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

12月28日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜	2019年	115,548	242	264	234	235	千葉 18%
	2020年	119,510	234	269	221	223	茨城 18%
	2021年	113,571	249	265	241	244	北海道 12%
	2022年	111,631	247	273	238	242	愛知 10%
	2023年	110,751	260	294	241	255	神奈川 6%
	5カ年平均	114,202	246	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
計	2024年見通し	113,000	245	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 暖冬傾向のため、多くの品目が生育順調。一部の品目は、生育が前進傾向のため切り上がり及早まる可能性がある。 【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに上回る。(▲2.0%) 価格：前年をやや下回る。(▲5.8%)							
だいこん	2019年	10,975	67	70	64	67	千葉 47%
	2020年	11,290	75	88	72	67	神奈川 45%
	2021年	10,597	90	103	80	88	徳島 3%
	2022年	10,328	76	88	67	77	鹿児島 2%
	2023年	10,281	99	111	81	105	福岡 1%
	5カ年平均	10,694	81	92	73	80	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
計	2024年見通し	10,500	95	95	90	100	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 入荷先の主体は千葉、神奈川となる。生育順調で、1～2週間程度の生育前進がみられる。出荷サイズは太物傾向。 【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに上回る。(▲2.1%) 価格：前年をやや下回る。(▲4.0%)							
にんじん	2019年	7,049	103	102	114	93	千葉 81%
	2020年	6,378	129	143	131	119	埼玉 9%
	2021年	6,788	141	142	143	138	茨城 4%
	2022年	6,544	100	114	105	89	北海道 1%
	2023年	6,604	115	127	111	113	鹿児島 1%
	5カ年平均	6,673	117	125	121	110	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
計	2024年見通し	6,600	120	125	110	125	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 入荷先の主体は千葉となる。生育順調で前進傾向。入荷量は、上旬は少なめ、中旬以降は例年並の見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(▲0.1%) 価格：前年をやや上回る。(▲4.3%)							

名古屋市中央卸売市場

12月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	2019年	3,222	49	57	48	46	茨城 62%
	2020年	2,859	64	84	60	55	愛知 16%
	2021年	3,383	52	55	53	51	兵庫 14%
	2022年	3,287	51	51	53	49	三重 4%
	2023年	3,153	67	66	56	78	宮崎 3%
	5カ年平均	3,181	56	62	54	56	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	3,200	60	70	60	50	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 茨城、愛知、兵庫を中心に入荷する。各産地、生育良好で大玉傾向。このまま暖冬が続けば、後半に品薄で高値となる予想。							
【概況見通し】 入荷量：前年並。(+1.5%) 価格：高値だった前年をかなり下回る。(▲10.4%)							
キャベツ	2019年	2,711	92	78	94	100	愛知 83%
	2020年	3,241	60	72	57	58	茨城 9%
	2021年	3,834	85	86	87	85	三重 4%
	2022年	3,641	74	67	75	79	滋賀 3%
	2023年	4,034	89	99	88	87	静岡 1%
	5カ年平均	3,492	80	81	80	82	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	3,800	80	80	80	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 愛知を中心に茨城などから入荷する。愛知は生育良好で順調な出荷見込み。年明けの出荷は少ないが、徐々に増加する見込み。寒波等の影響がなければ安定入荷の予想。							
【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(▲5.8%) 価格：前年をかなり下回る。(▲10.1%)							
ほうれんそう	2019年	263	534	504	550	544	愛知 40%
	2020年	310	523	618	526	486	茨城 33%
	2021年	256	649	732	680	596	群馬 8%
	2022年	239	600	545	607	621	岐阜 6%
	2023年	255	630	802	576	596	静岡 5%
	5カ年平均	265	584	640	585	564	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	250	620	620	620	620	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 愛知を中心に茨城などから入荷する。厳冬期に入り、特に県内は露地作中心なので不安定な出荷状態が懸念される。関東物は増加傾向で、全体としては例年並の見込み。							
【概況見通し】 入荷量：前年並。(▲2.0%) 価格：前年並。(▲1.6%)							

東京都中央卸売市場

12月28日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	2019年	14,178	37	41	38	35	茨城 86%
	2020年	13,992	60	72	57	53	群馬 9%
	2021年	15,004	37	37	37	36	兵庫 2%
	2022年	13,901	39	39	41	37	埼玉 2%
	2023年	13,089	53	47	45	65	和歌山 1%
	5ヵ年平均	14,033	45	47	43	45	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	13,000	40	45	35	40	
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 入荷先の主体は茨城となる。生育は順調で、潤沢な入荷を見込む。出荷ペースは、やや前倒しの傾向である。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(▲0.7%) 価格：前年を大幅に下回る。(▲24.5%)</p>						
キヤベツ	2019年	12,805	100	90	100	106	愛知 57%
	2020年	15,382	68	83	65	61	千葉 22%
	2021年	12,887	99	103	98	98	神奈川 12%
	2022年	15,006	79	74	77	84	茨城 6%
	2023年	13,560	98	111	97	92	群馬 1%
	5ヵ年平均	13,928	88	92	86	87	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	14,000	85	90	80	85	
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 入荷先の主体は愛知、千葉、神奈川となる。生育順調で潤沢な入荷を見込む。出荷サイズは8玉中心となる。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をやや上回る。(＋3.2%) 価格：前年をかなり下回る。(▲13.3%)</p>						
ほうれんそう	2019年	1,319	535	589	545	495	群馬 38%
	2020年	1,564	527	689	485	476	茨城 34%
	2021年	1,409	610	708	588	563	埼玉 11%
	2022年	1,282	595	617	600	577	千葉 7%
	2023年	1,555	567	699	516	525	栃木 6%
	5ヵ年平均	1,426	566	663	544	526	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	1,400	600	500	650	650	
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 入荷先の主体は群馬、茨城となる。暖冬のため生育は前進傾向。相場は「年末に上昇→上旬に下がる」の例年の流れを見込む。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をかなり下回る。(▲10.0%) 価格：前年をやや上回る。(＋5.8%)</p>						

名古屋市中央卸売市場

12月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2019年	969	362	466	371	306	大分 22%
	2020年	1,044	348	434	360	295	群馬 17%
	2021年	854	490	582	518	410	静岡 14%
	2022年	990	368	461	353	335	長野 10%
	2023年	1,028	385	473	349	369	茨城 7%
	5カ年平均	977	387	480	386	341	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	1,000	400	450	400	350	
ねぎ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 大分、群馬、静岡などから入荷する。愛知産越津ねぎは年明け増加傾向。大分、静岡産は遅れていた分が出揃う見込み。天候が崩れなければ各産地順調な出荷見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに下回る。(▲2.7%) 価格：前年をやや上回る。(▲3.9%)</p>						
しそ	2019年	1,465	244	251	250	235	兵庫 31%
	2020年	1,636	220	232	211	225	愛知 16%
	2021年	1,369	247	243	229	262	静岡 16%
	2022年	1,385	272	279	255	289	熊本 15%
	2023年	1,652	262	313	253	238	長崎 10%
	5カ年平均	1,501	248	264	239	248	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	1,500	260	260	250	240	
しそ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 兵庫、愛知、静岡などから入荷する。全国的に作付面積が減っており、厳冬期であることから玉のびせず、出荷量は大きな山なく推移する見通し。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をかなり下回る。(▲9.2%) 価格：前年並。(▲0.8%)</p>						
きゅうり	2019年	1,312	410	442	398	395	愛知 58%
	2020年	1,184	522	529	444	592	宮崎 19%
	2021年	1,235	360	344	353	381	高知 12%
	2022年	1,157	361	324	328	423	鹿児島 11%
	2023年	1,087	462	434	393	565	
	5カ年平均	1,195	422	415	383	467	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	1,130	390	360	380	400	
きゅうり	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 愛知を中心に宮崎、高知などから入荷する。年末年始の冷え込み次第だが作柄は良好で、品質が良い見込み。下旬以降、節分に向けて価格が上がる見通し。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をやや上回る(+4.0%) 価格：前年をかなり下回る。(▲15.6%)</p>						

東京都中央卸売市場

12月28日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2019年	5, 578	318	386	317	274	千葉 28%
	2020年	5, 831	304	368	242	215	茨城 26%
	2021年	4, 935	462	538	442	425	埼玉 19%
	2022年	5, 447	303	410	287	258	栃木 9%
	2023年	5, 844	312	397	276	288	群馬 9%
	5ヵ年平均	5, 527	336	416	309	288	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	5, 600	290	250	320	300	
ねぎ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 入荷先の主体は千葉、茨城、埼玉となる。夏期の高温による生育不良から回復傾向にあり、順調な入荷を見込む。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(▲4.2%) 価格：前年をかなり下回る。(▲7.0%)</p>						
しそ	2019年	6, 945	240	247	245	230	静岡 35%
	2020年	7, 409	209	218	199	210	長崎 15%
	2021年	5, 996	233	229	216	250	香川 14%
	2022年	5, 984	274	284	254	289	兵庫 8%
	2023年	6, 501	264	319	248	234	熊本 6%
	5ヵ年平均	6, 567	243	258	232	241	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	6, 400	240	230	260	230	
しそ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 入荷先の主体は静岡、長崎、香川となる。生育は概ね順調で、中旬以降は安定した入荷を見込む。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(▲1.6%) 価格：前年をかなり下回る。(▲9.1%)</p>						
きゅうり	2019年	4, 553	458	518	439	425	宮崎 46%
	2020年	4, 062	607	647	504	674	高知 16%
	2021年	4, 711	389	364	394	406	千葉 16%
	2022年	4, 611	374	331	345	436	群馬 7%
	2023年	4, 154	509	492	420	623	茨城 7%
	5ヵ年平均	4, 418	463	465	418	506	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	4, 300	410	380	440	410	
きゅうり	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 入荷先の主体は宮崎、高知、千葉となる。入荷量は、上旬は順調と見込むが、中旬以降は急激な気温低下があれば減少する。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をやや上回る。(＋3.5%) 価格：前年を大幅に下回る。(▲19.4%)</p>						

名古屋市中央卸売市場

12月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
な	2019年	400	394	375	384	422	熊本 51%
	2020年	415	407	388	390	451	愛知 46%
	2021年	367	396	356	385	442	高知 2%
	2022年	399	369	343	359	402	
	2023年	362	397	339	359	537	
	5ヵ年平均	389	393	361	376	449	
	2024年見通し	400	375	350	370	400	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
す	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 熊本、愛知を中心に入荷する。上旬は年末年始を挟み数量もまとまるが、中旬から数量は落ち着く見込み。冷え込んだ場合、価格が急上昇する可能性あり。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をかなり上回る。(▲10.5%) 価格：前年をやや下回る。(▲5.5%)</p>						
ト	2019年	1,104	258	237	258	282	熊本 46%
	2020年	1,065	285	252	283	320	愛知 25%
	2021年	1,267	242	261	254	220	三重 15%
	2022年	996	278	289	268	287	岐阜 12%
	2023年	1,044	300	293	299	312	大分 2%
	5ヵ年平均	1,095	271	266	272	282	
	2024年見通し	1,000	300	280	300	330	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
マ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 熊本、愛知、三重、岐阜が中心となる。加温不足が目立ち、中旬以降は着果負担による花飛びや成り疲れの可能性が高く、出荷量の減少に伴い、価格が上がる見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(▲4.2%) 価格：前年並。(±0%)</p>						
ミ	2019年	500	576	509	569	659	熊本 71%
	2020年	463	573	464	581	694	愛知 24%
	2021年	539	513	449	551	548	和歌山 3%
	2022年	589	546	532	539	567	宮崎 2%
	2023年	570	537	448	502	700	
	5ヵ年平均	532	548	481	546	631	
	2024年見通し	550	550	550	550	550	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
ト	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 熊本、愛知を中心に入荷する。12月までの着果負担から1月全体では少なめの出荷を見込む。少量出荷のため、中下旬から価格が上がる見通し。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(▲3.5%) 価格：前年をわずかに上回る。(▲2.4%)</p>						

東京都中央卸売市場

12月28日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
なす	2019年	1,974	453	405	441	512	高知 67%
	2020年	2,032	463	413	447	539	福岡 17%
	2021年	1,966	459	409	470	499	熊本 9%
	2022年	2,159	404	354	404	442	佐賀 3%
	2023年	1,925	453	366	415	599	栃木 2%
	5ヵ年平均	2,011	446	389	435	517	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	2,000	450	400	490	460	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 入荷先の主体は高知、福岡となる。入荷量は、上旬は12月より若干増量するも、中旬以降は減少傾向となる見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年をやや上回る。 (+3.9%) 価格：前年並。 (▲0.7%)							
トマト	2019年	5,767	314	294	308	337	熊本 42%
	2020年	5,243	336	312	327	373	栃木 18%
	2021年	5,937	299	314	310	277	愛知 17%
	2022年	5,215	339	356	327	340	静岡 5%
	2023年	5,064	351	352	338	366	千葉 4%
	5ヵ年平均	5,445	327	324	321	337	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	5,100	330	300	340	350	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 入荷先の主体は熊本、栃木、愛知となる。生育は概ね順調で前進傾向のため、入荷量は下旬に減少する可能性がある。 【概況見通し】 入荷量：前年並。 (+0.7%) 価格：前年をやや下回る。 (▲6.0%)							
ミニトマト	2019年	1,885	554	481	538	652	熊本 45%
	2020年	1,776	571	473	566	681	愛知 19%
	2021年	1,979	505	466	529	521	千葉 10%
	2022年	1,976	560	560	530	595	宮崎 10%
	2023年	1,873	566	503	539	671	静岡 8%
	5ヵ年平均	1,898	551	497	540	622	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	1,900	550	450	550	650	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 入荷先の主体は熊本、愛知等となる。生育は順調。入荷量は、上旬は潤沢となるが、中旬以降は減少する見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年並。 (+1.4%) 価格：前年わずかに下回る。 (▲2.8%)							

名古屋市中央卸売市場

12月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2019年	349	654	569	667	694	鹿児島 57%
	2020年	361	637	567	607	794	宮崎 29%
	2021年	411	553	442	584	643	高知 14%
	2022年	395	484	398	475	601	
	2023年	408	659	653	649	728	
	5カ年平均	385	595	524	595	690	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	400	513	440	500	600	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 鹿児島、宮崎、高知から入荷する。上旬までは安定した出荷となり、中旬から下旬にかけては肥大の遅れから数量が少なく、単価も高くなる見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(▲2.0%) 価格：前年を大幅に下回る。(▲22.2%)							
ばれいしょ	2019年	2,553	120	116	119	121	北海道 54%
	2020年	2,864	81	88	84	74	長崎 34%
	2021年	2,605	205	158	207	227	鹿児島 12%
	2022年	2,388	247	230	254	248	
	2023年	2,658	134	125	130	139	
	5カ年平均	2,613	154	141	156	159	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	2,500	125	125	125	125	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 北海道を中心に長崎、鹿児島から入荷する。道産は、平年よりも年明けの在庫が多いが、発芽懸念のため価格は低迷見込み。長崎産、鹿児島産は順調な入荷見通し。 【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(▲5.9%) 価格：前年をかなり下回る。(▲6.7%)							
たまねぎ	2019年	4,992	122	138	115	126	北海道 94%
	2020年	4,469	82	80	84	83	静岡 5%
	2021年	5,817	85	82	88	86	中国 1%
	2022年	4,845	165	172	193	149	愛知 1%
	2023年	5,209	114	115	105	122	
	5カ年平均	5,066	113	117	116	113	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	5,000	190	190	190	190	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 北海道主体で静岡からも一部入荷する。夏場の猛暑による品質低下から数量減少見込み。道産の貯蔵量少なく、単価高騰予想。静岡産は年明けから順調な入荷見通し。 【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(▲4.0%) 価格：前年を大幅に上回る。(▲66.7%)							

東京都中央卸売市場

12月28日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2019年	1, 3 1 5	7 1 4	633	730	754	宮崎 53%
	2020年	1, 3 4 8	7 0 3	617	655	835	高知 19%
	2021年	1, 6 0 3	6 0 4	493	610	686	鹿児島 17%
	2022年	1, 6 5 6	5 4 0	415	513	657	茨城 10%
	2023年	1, 4 7 9	7 4 4	731	700	801	
	5カ年平均	1, 4 8 0	6 5 5	571	636	742	
	2024年見通し	1, 4 0 0	6 4 0	620	660	640	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量 t			単価 円/Kg
	【産地状況】 入荷先の主体は宮崎、高知等となる。生育は概ね順調で、入荷量は安定すると見込むが、急激な気温低下があれば減少する。 【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(▲5.3%) 価格：前年をかなり下回る。(▲14.0%)						
	ばれいしょ	2019年	7, 6 2 6	1 1 8	124	118	115
2020年		8, 3 0 7	8 7	89	87	85	長崎 18%
2021年		6, 9 3 2	1 9 9	166	199	217	鹿児島 16%
2022年		6, 3 0 5	2 4 1	233	242	243	
2023年		6, 9 0 9	1 3 4	131	134	137	
5カ年平均		7, 2 1 6	1 5 1	144	151	154	
2024年見通し		6, 9 0 0	1 2 0	130	130	100	前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量 t			単価 円/Kg	
【産地状況】 入荷先の主体は北海道、長崎、鹿児島となる。北海道産は品質低下から引き合いが弱い。長崎、鹿児島は生育順調。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(▲0.1%) 価格：前年をかなり下回る。(▲10.4%)							
たまねぎ		2019年	8, 1 7 9	1 4 4	132	140	153
	2020年	8, 1 2 6	9 5	93	96	94	静岡 8%
	2021年	9, 4 7 4	9 4	91	96	94	中国 2%
	2022年	7, 9 7 7	1 9 0	191	187	193	
	2023年	8, 7 2 2	1 2 7	120	121	136	
	5カ年平均	8, 4 9 6	1 2 9	124	127	133	
	2024年見通し	8, 0 0 0	1 8 0	200	170	170	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量 t			単価 円/Kg
	【産地状況】 入荷先の主体は北海道となる。北海道産は夏期の高温と干ばつの影響で生育が悪く、入荷量は平年に比べて少ない見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年をかなり下回る。(▲8.3%) 価格：前年を大幅に上回る。(▲41.7%)						

名古屋市中央卸売市場

12月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2019年	7,988	394	402	367	385	静岡 23%
	2020年	7,344	416	462	339	382	青森 18%
	2021年	8,204	382	426	366	374	フィリピン 16%
	2022年	7,616	424	491	408	412	愛知 11%
	2023年	8,650	428	500	412	402	愛媛 5%
	5カ年平均	7,960	409	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2024年見通し	7,300	440	—	—	—		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】いちご、みかん、りんごなどが主な品目となる。りんごは、青森産中心の入荷となり、1月中旬までは台湾の春節需要で、国内は中旬以降に増加する見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をかなり下回る。(▲15.6%) 価格：前年をわずかに上回る。(＋2.8%)</p>						
み	2019年	2,681	285	282	281	296	静岡 72%
	2020年	2,345	289	324	301	272	愛知 17%
	2021年	2,954	241	258	230	241	和歌山 7%
	2022年	2,974	277	285	277	276	三重 1%
	2023年	2,781	314	303	310	330	徳島 1%
	5カ年平均	2,747	280	289	278	283	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2024年見通し	2,600	300	300	300	300		
みかん	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】静岡を中心に愛知などからも入荷する。1月は青島みかんが中心となるが、裏年のため昨年より数量が減少する見込み。玉流れは2L>L>3Lと大玉傾向。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をかなり下回る。(▲6.5%) 価格：前年をやや下回る。(▲4.5%)</p>						
い	2019年	635	1,440	1,493	1,430	1,481	愛知 58%
	2020年	508	1,737	1,918	1,670	1,644	熊本 26%
	2021年	687	1,469	1,570	1,431	1,411	鹿児島 5%
	2022年	459	1,987	2,176	1,912	1,891	佐賀 4%
	2023年	647	1,655	1,872	1,525	1,536	福岡 2%
	5カ年平均	587	1,631	1,775	1,568	1,569	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2024年見通し	660	1,550	1,600	1,500	1,450		
いちご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】熊本、愛知を中心に入荷する。1番果と2番果が連続するか次第だが、中旬は数量がやや少なく、下旬から2番果の出荷が始まる見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに上回る。(＋2.0%) 価格：前年をかなり下回る。(▲6.3%)</p>						

東京都中央卸売市場

12月28日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2019年	34,638	453	516	423	446	静岡 21%
	2020年	33,257	457	545	430	435	青森 15%
	2021年	35,662	448	516	423	432	愛媛 13%
	2022年	32,811	507	611	486	481	和歌山 8%
	2023年	32,548	535	653	504	504	栃木 6%
	5ヵ年平均	33,783	466	—	—	—	
2024年見通し		32,600	530	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 みかんを中心にいちご、りんごなどが入荷する。熊本「不知火」は、加温から無加温の切り替わりで入荷量は少ない見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(+0.2%) 価格：前年並。(▲0.9%)</p>						
みか	2019年	13,524	301	286	292	318	静岡 52%
	2020年	13,991	276	279	277	274	和歌山 14%
	2021年	14,575	252	248	249	258	長崎 10%
	2022年	13,765	279	276	276	285	熊本 8%
	2023年	12,213	320	301	317	334	愛媛 8%
	5ヵ年平均	13,614	284	277	281	292	
2024年見通し		13,000	300	290	300	310	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
みかん	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 静岡の「青島」を中心に和歌山、長崎などから入荷する。主要産地の入荷量は平年並みで、L玉中心となる見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をかなり上回る。(＋6.4%) 価格：前年をかなり下回る。(▲6.3%)</p>						
いちご	2019年	3,839	1,473	1,499	1,420	1,490	栃木 49%
	2020年	3,000	1,799	1,975	1,739	1,692	福岡 12%
	2021年	4,390	1,474	1,531	1,431	1,460	茨城 10%
	2022年	3,551	1,833	2,033	1,791	1,727	静岡 9%
	2023年	4,153	1,682	1,924	1,598	1,554	佐賀 7%
	5ヵ年平均	3,787	1,638	1,775	1,582	1,574	
2024年見通し		4,250	1,633	1,850	1,550	1,500	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
いちご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 栃木を中心に福岡、茨城などから入荷する。関東・九州産地は潤沢な入荷量となる見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに上回る。(＋2.3%) 価格：前年をわずかに下回る。(▲2.9%)</p>						

切花・鉢花の1月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 1月10日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	2019年	1,666	54	
		2020年	1,485	53	
		2021年	1,222	33	
		2022年	1,111	55	
		2023年	1,324	53	
	5カ年平均		1,362	50	
	2024年見通し		1,200	50	
概要	愛知、沖縄からの入荷。月を通して入荷量は多くない見込み。業務需要状況で相場は大きく変動しそう。				
小 ぎ	実績	2019年	684	40	
		2020年	813	30	
		2021年	542	32	
		2022年	641	27	
		2023年	528	42	
	5カ年平均		642	34	
	2024年見通し		650	30	
概要	沖縄中心の入荷。年末分がきれいに終わり、上旬は少なめで中旬以降安定出荷となるが、全体量は平年より少ないと思われる。				
カー ネ ー シ ョ ン	実績	2019年	864	46	
		2020年	874	41	
		2021年	735	35	
		2022年	764	50	
		2023年	788	59	
	5カ年平均		805	46	
	2024年見通し		770	50	
概要	愛知中心の入荷。上旬は年末が暖かい予想で入荷は多めに推移すると思われるが、中旬以降はガラガラとした出荷の見込み。輸入品については平年並の入荷と思われる。				
か す み	実績	2019年	167	57	
		2020年	148	82	
		2021年	118	76	
		2022年	123	106	
		2023年	140	94	
	5カ年平均		139	81	
	2024年見通し		120	100	
概要	高知、和歌山、熊本からの入荷となる。12月下旬に全国的な冷え込みにより出荷抑制がかかっている。そのため、上旬は出荷量が増える見込み。				

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆ り	実績	2019年	235	180	
		2020年	122	282	
		2021年	169	179	
		2022年	178	221	
		2023年	180	236	
	5カ年平均		177	214	
	2024年見通し		180	180	
概要	<p>オリエンタルは高知、宮崎、埼玉、愛知から、鉄砲は高知、鹿児島から、LAは埼玉、高知からの入荷となる。オリエンタルは年末用のずれ込みがあり、年明け荷は少し多そうだが、その後は落ち着いた入荷となる見込み。</p>				
洋 ら ん	実績	2019年	449	72	
		2020年	469	81	
		2021年	274	78	
		2022年	263	110	
		2023年	243	138	
	5カ年平均		340	91	
	2024年見通し		270	100	
概要	<p>高知、徳島、愛知、静岡等の国内物や輸入品が入荷する。コショウランの輸入品は潤沢な入荷、国内産は減少傾向と予想される。カトリアは入荷安定で平年並の見込み。オンシジウムは当初入荷は少なめに推移するが順次増えてくる見込み。シンピジウムは年々遅れがあり、入荷はダラダラとした出方で多くはない。</p>				
ば ら	実績	2019年	524	76	
		2020年	520	83	
		2021年	410	78	
		2022年	462	99	
		2023年	520	100	
	5カ年平均		487	87	
	2024年見通し		460	90	
概要	<p>愛知、岐阜、三重中心に入荷。寒さの影響から入荷量は少ない見込み。初市から成人の日需要が多く見込まれる。</p>				
枝 も の	実績	2019年	1,187	48	
		2020年	1,170	51	
		2021年	812	51	
		2022年	1,110	54	
		2023年	921	66	
	5カ年平均		1,040	54	
	2024年見通し		1,100	50	
概要	<p>年々経費高により年末の促成を諦め、年明けに回る花材が増え、販売の見通しが立てづらくなっている。旧正月の需要は20日頃からの見込み。露地物の出荷は例年通りであるが、促成物は遠隔地中心に価格との見合わせをしながらの出荷となりそう。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
工 麗	実 績	2019年	12,921	172	
		2020年	9,553	208	
		2021年	9,488	176	
		2022年	7,672	248	
		2023年	5,862	283	
	5ヵ年平均	9,099	207		
	2024年見通し	5,800	284		
カ	概要	入荷量は前年並か。2023年秋の暑さの影響から生育不良や痛みが多く、生産量自体が少なく出荷量は大きく減る見込み。時期的にスズランエリカ、ジャノメエリカが中心となる。暦の関係から初市が遅くなるため、年明け早々は好市況が期待できる。その一方で月末に向けて寒さが厳しくなるとともに需要が減り、緩やかに値は下がる見込み。 前年1月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(44.8%)、2位山梨(39.3%)、3位新潟(10.9%)となっている。			
プ 麗 ム	実 績	2019年	390,400	95	
		2020年	437,705	88	
		2021年	290,753	104	
		2022年	357,676	96	
		2023年	312,376	99	
	5ヵ年平均	357,782	96		
	2024年見通し	320,000	100		
ラ	概要	入荷量は前年よりわずかに多い見込み。夏の暑さにより生育不順、生育遅れがあり、12月出荷分が一部1月にずれ込むことが要因か。ポリアンも同様の傾向があるが、生産量の減少が大きいので入荷量は前年並の見込み。 前年1月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(32.5%)、2位埼玉(17.5)、3位奈良(8.3%)となっている。			
チ ュ ー ャ ッ プ	実 績	2019年	36,588	207	
		2020年	34,845	209	
		2021年	36,800	208	
		2022年	39,692	233	
		2023年	39,242	196	
	5ヵ年平均	37,433	211		
	2024年見通し	38,000	192		
概要	入荷量は前年より減少傾向となるが、単価の値上がりは期待できず、前年より厳しい単価の見込み。今期も球根の仕入れ値が高騰しているため、入荷量は減少する見込み。生産サイズも前年同様、4号は愛知中心で、5号以上は関東中心と思われる。 前年1月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(26.2%)、2位富山(20.2%)、3位埼玉(16.4%)となっている。				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
サイネリア	実績	2019年	44,420	279	
		2020年	38,470	280	
		2021年	34,967	286	
		2022年	38,213	290	
		2023年	27,909	296	
	5カ年平均		36,796	286	
	2024年見通し		27,000	304	
概要	<p>入荷量は前年よりやや減少か。前年の夏場の高温により生育段階でダメージを受けている産地・生産者が多いのが要因か。出荷の早い東北は年内出荷が大幅に遅れる見込み。埼玉・栃木は徐々に出荷量が増えていく見込みであるが、前年に比べ開花が遅れている。相場は4～5号の引き合いが強く、6号は厳しい見込み。</p> <p>前年1月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉（37.2%）、2位福島（21.2%）、3位茨城（13.9%）となっている。</p>				
マーガレット	実績	2019年	33,426	199	
		2020年	37,423	198	
		2021年	30,759	217	
		2022年	39,139	240	
		2023年	33,688	257	
	5カ年平均		34,887	222	
	2024年見通し		33,600	257	
概要	<p>入荷量は前年並か。3.5号、4号、5号中心で前半戦は引き合いが強くなる見込みだが、中盤以降厳しい取引が予想される。</p> <p>前年1月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（37.0%）、2位岐阜（13.0%）、3位静岡（12.9%）となっている。</p>				
デンドロビウム	実績	2019年	19,042	651	
		2020年	14,713	665	
		2021年	13,085	617	
		2022年	11,882	709	
		2023年	8,881	687	
	5カ年平均		13,521	662	
	2024年見通し		8,700	690	
概要	<p>入荷量は前年よりわずかに減少か。年内出荷が遅れて前半は入荷多めの予定となり、小鉢系の引き合いが強くなる見込み。大鉢も生産者減で引き合いが強くなる見込み。前年1月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（38.1%）、2位岡山（22.8%）、3位高知（10.6%）となっている。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.607
2024年1月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434